

史跡若松城跡 / 会津戦争と籠城戦

会津の戦いは、1868 年秋に発生し、会津若松の鶴ヶ城が 1 か月にわたって包囲されました。戊辰戦争（1868 ～ 1869 年）の重要な出来事の 1 つと考えられており、幕府に忠誠を誓う勢力と天皇の支配への復帰を支持する勢力との間で戦われました。

将軍の支持者

江戸時代（1603 ～ 1868 年）の末期は、動乱と社会の変化の時代でした。日本は徳川幕府の絶え間ない軍事支配下にあり、天皇の地位は名目上のものとなるまで引き下げられました。260 年以上にわたる日本国の孤立の末、1853 年に世界との国際関係が再確立されましたが、一部の武士たちは、その将軍徳川慶喜（1837-1913）の統治に不満を持っていました。彼らは、西側諸国への開放によって日本の政治的地位が弱体化することを懸念していたのです。

会津藩の武士は、規律と技巧と強い闘争心で知られ、幕府と密接な関係を築いていました。大名領主松平容保（1836-1893）の指導の下、会津は治安維持の為に京都（当時の日本の首都）に多くの軍隊を派遣しました。徳川の従姉妹であり、信頼できる支持者だった容保は、1862 年から 1868 年まで京都守護職を務めました。

この有利な地位は、他のいくつかの藩のメンバーの間で、彼と会津藩に対する羨望と不信の高まりにつながりました。

権力闘争

明治天皇（1852-1912）が即位すると、強力な薩摩、土佐、長州（現在の鹿児島県、高知県、山口県）の指導者たちは、若い天皇に幕府に抵抗するよう説得しました。慶喜は当初、混乱を避け身の安全を確保するために、政治的地位を放棄することに同意しました。しかし慶喜は維新の志士たちが徳川一族の政治的影響力を排除しようとする動きに不満を抱き、天皇の支配から京都を取り戻そうとし、それが戊辰戦争へと発展しました。

1868 年 1 月 27 日、会津藩は、京都の鳥羽伏見の戦いで、新たに設立された薩長同盟軍と戦いました。同盟は、天皇によってすぐに新政府軍としての正式な地位を与えられました。徳川はすぐに権力の主張を放棄し、京都から脱出し、容保と彼の支持者に新政府軍の対処を任せました。天皇は 1868 年に国を支配し、軍事政権を終わらせ、明治維新をもたらしました。その後、同盟軍は容保と会津武士を処罰するよう要求し、容保の度重なる謝罪の努力は受け入れられず、容保は軍を率いて撤退することになりました。

最終決戦

すべての武士が土地を天皇に返還するよう命じられたとき、会津藩は拒否しました。数ヶ月間、本州

北部の東北地方の諸藩との同盟に助けられて、彼らは戦い続けました。会津を支持した人々の中には、京都の幕府の代表者を保護するために容保が設立した警備隊である新撰組のメンバーがいました。新撰組のほとんどは武家出身ではありませんでしたが、彼らは剣術と幕府への忠誠心で知られていました。

1968 年の秋までに、会津軍は、帝国軍が迫る中、領地を守るために単独で戦っていました。敵は、外国から輸入された銃や大砲を含む、より新しく強力な武器を持っていました。10 月 6 日、新政府軍が鶴ヶ城を包囲し、多くの女性、子供、高齢者を含む 5,000 人の市民が城内に閉じ込められるという転換点がありました。容保は、状況が急速に悪化するのを見て、1 か月後に降伏することに同意しました。

近隣の米沢藩(現在の山形県の一部)の役人は降伏条件の交渉を支援しました。容保とその息子の喜徳ら幹部らが軟禁され、誇り高き会津藩の時代は幕を閉じました。日本は今や一人の指導者の下で統一され、天皇は新しい首都として東京を設立しました。旧藩は県に改められ、会津は福島県の一部となりました。